



防災カフェ

人には正常性バイアスという災害の危険性が高まったような異常事態でも「自分は大丈夫」と思い込んでしまう心理的傾向があり、この影響で避難のタイミングを失い、危険な状況に巻き込まれてしまった事例があります。

いつ避難を始めるかは、災害から自分の身を守るうえで重要なポイントであり、避難を実際の行動に移すためのきっかけとなるのが「避難スイッチ」といわれるものです。

避難スイッチには3つあり、一つめは「情報」（避難に関する情報や気象情報など）、二つめは「身近な異変」（見慣れている状況の変化への気付き）、三つめが「人からの呼びかけ」（隣人からの誘いや友人からの伝言等）です。

折しも5月から新たな避難情報等の運用が始まり、警戒レベル4にあたる避難勧告と避難指示（緊急）が避難指示に一本化されるな

避難情報を 避難スイッチに

どの改正が行われました。避難指示は全員避難を呼びかけるものです。避難指示が発令されたら全員が避難スイッチを入れ、危険な場所から避難するようにしましょう。また避難に時間がかかる高齢者や障がいのあるかたは、高齢者等避難（警戒レベル3）で避難スイッチを入れ、避難を開始しましょう。

なお「新たな避難情報等」については、広報あしべつ6月号で配布したチラシを確認いただくか、危機対策係までお問い合わせください。



●詳細 危機対策係 ☎27-7058

花火・火遊びによる火災に注意しましょう

夏の風物詩「花火」。いよいよ子どもたちにとって楽しい季節となりました。しかし、気軽に楽しめる花火も、取り扱いを誤ると火事や火傷などの事故につながりかねません。

子どもの火遊びによる火災は、大人がいない時に発生することが多く、そのため火災の発見が遅れ火災が拡大する要因にもなります。

■花火を安全に遊ぶポイント

- ①風の強いときは花火をしない
- ②燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ
- ③子どもだけでなく大人と一緒に遊ぶ
- ④説明書をよく読み、注意事項を必ず守る
- ⑤水バケツを用意し、使った花火は必ず水につける

■子どもの火遊びによる火災防止のポイント

- ①子供だけを残して外出しない
- ②ライターやマッチを子どもの手の届くところに置かない
- ③子どもだけで火を取り扱わせない
- ④火遊びをしているのを見かけたら注意する
- ⑤火災の恐ろしさ・火の取り扱いについて教育する



事故が起こらないように十分注意し、楽しい夏の思い出にしましょう。

●詳細 芦別消防署保安係 ☎22-3106